

平成 27 年 5 月 20 日

各 位

上場会社名 モジュール株式会社

(J A S D A Q : 3 0 4 3)

代 表 者 代表取締役 松村 明

問 合 せ 先 財務&経企責任者 小田 真理

(T E L : 0 3 - 3 4 5 4 - 2 0 6 1)

中期経営計画の提出等について

当社は、2016年05月期～2018年05月期に係る中期経営計画を策定致しましたので、当該中期経営計画を記載した資料を提出いたします。

なお、当該資料について、当社のホームページに掲載いたします。

U	R	L	http://www.modulat.com/d_ir/material.html
掲	載	日	2015年05月20日

【添付資料】

中期経営計画：2016年05月期～



中期経営計画：2016年05月期～

1. 中期経営計画

(ア) 当中期経営計画提出時点における前事業年度の総括

前事業年度は計画（業績予測値）を達成する事が出来ました。（仔細は別途発表済み資料の通り）5期連続の増収増益（増益は6期連続。）であり、営業利益、当期純利益は過去最高値です。また、機関決定が前提ではありますが増配も達成する事が出来そうです。

既存サービスは堅調で、いくつかの新サービスも軌道に乗った結果、受注残は約27億円（前年対比117.0%増）、年間継続契約額は約10億円（前年対比4.2%増）、預け金を含む現預金額は約8億3千万円（前年対比114.3%増）などの経営基盤が強化されました。

社内では若年層を中心に社員数も8%程度増員され、将来に向けての更なる成長への準備を継続しており、またフレキシブルで自由な労働環境の構築も今後の重要なテーマであると考えています。

(イ) 中期経営計画の概要及び策定の背景

IT業界全体は小幅なマイナス成長が予測されていますが、当社が属するITサービス業界は今後もプラス成長が予測されています。（出典：2015年5月13日 IDC Japan 株式会社 国内製品別IT市場予測）

このような状況の中、当社は今後の3年間を「質と量の両面での成長の好機」と捉え、前期以上の業績に挑戦しつつも、コンプライアンスやガバナンスの強化も含む堅実な体質を更に強めていく所存です。

(ウ) 事業の進捗状況及び今後の見通し並びにその前提条件

まず前提状況として、前項通りの業界環境の中、スマートデバイスやクラウド環境の台頭により、ITそのものの企業活動における重要性や適用範囲はより広がり続けていると認識しております。

従いまして、当社のビジネスの基本である「企業様向けのITのオーダーメイドサービス」というビジネスモデル、そして「日本のIT投資の無駄を徹底的に排除して、企業競争力に寄与する無駄のないIT投資を促進させる」という当社の目標に変更の必要はなく、堅実に本業を推進していく所存です。

尚、堅実性の中にも、一定の規模的増加は必要だと認識しており、顧客企業に求められている「更なる新しいサービス」の促進や立ち上げも急務と認識しています。

2. 今後の業績予想及び今後の業績目標

既存サービスの積み上げ予測に加え、パソコン自動化サービス、ソフトウェア開発、デジタルマーケティング等の個別の新サービス計画を積み上げた下記目標を目指して、全社一丸となり取り組んで参ります。

	2015/03 期実績	2016/05 期予測	2017/05 期目標	2018/05 期目標
売上高	2,115 百万円	2,300 百万円	2,700 百万円	3,000 百万円
営業損益	183 百万円	190 百万円	250 百万円	300 百万円
経常損益	159 百万円	170 百万円	(未発表)	(未発表)
当期純損益	103 百万円	110 百万円	(未発表)	(未発表)

<本資料お取り扱い上のご注意>

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。